

大学コンソーシアムやまがた幹事会（平成24年度第3回）議事録

日 時 平成24年9月26日（水）15:00～17:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 委員長 安田 弘法（山形大学）
副委員長 金内 良一（保健医療大学）
草苺 信博（米沢女子短期大学）
大川 健嗣（東北文教大学）

委 員 栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）
田中ふみ子（羽陽学園短期大学）
瀬川 透（鶴岡工業高等専門学校）
迎田伊三郎（代理）（放送大学山形学習センター）
藤原 茂樹（産業技術短期大学校）
後藤 紀夫（山形県）
勝見 英一朗（山形工科短期大学校）

欠席者 副委員長 五十嵐 眞二（東北芸術工科大学）

委 員 山崎 彰（事業評価委員会委員長／山形大学）
平松 緑（東北公益文科大学）
岸 善一（農業大学校）

議事に先立ち、委員長から、本日の議事録署名人を羽陽学園短期大学 田中委員と山形工科短期大学校 勝見委員にお願いしたい旨提案があり了承された。

引き続き、委員長から、協議事項2に関連して山形大学の横井博教授が説明者として出席している旨紹介された。

[協議事項]

1 平成25年度負担金について

事務局から資料1-1に基づき提案があり、質疑応答、意見交換が行なわれた。委員長から、平成25年度の負担金については、事業評価委員により実施する事業評価の際に支出額を含めた評価を行い、その評価に基づいた原案を改めて幹事会に提案したい旨発言があり、了承された。

(主な意見交換内容)

- ・今回は結論を出すのではなく、いただいた意見を元に今後の幹事会において、平成25年度負担金(案)を提案していきたい。
- ・公立大学法人化に伴い、平成21年度予算編成時に、所要額として、県が査定した額から毎年度、前年度予算額の1.5%を減額されている現状があり、本コンソーシアム負担金は例外として前年度同額を計上してきている。来年度予算に向けては、負担金の減額の検討をお願いしたい。また、本コンソーシアムの来年度予算における構成員負担金については、均等額及び学生定数当たり単価のいずれについても、24年度当初予算に0.9を乗じて得た額としてはいかがか。これに伴い、支出額についても精査する必要があり、構成員の学校より幹事会委員長の指名によりワーキンググループを組織し、支出内容及びその基礎となる事業計画について検討いただきたい。なお、予算審議を実質的なものとするために、予算案の早期編成、事前配付、十分な幹事会、総会での審議時間確保をお願いする。
- ・同様の状況であり、負担金の減額を希望する。
- ・各大学の財務状況は厳しいものと思われるが、減額ありきではなくワーキング・グループに検討いただき方向性を検討する必要があるのではないか。また、負担金算出方法について学生定数を基に算定している現行方法についての見直しも考えてはどうか。
- ・私学への助成制度も定員重視の時代となっており、財務状況は厳しい。
- ・既存の事業評価委員会に、事業計画及び支出内容に関しても評価いただいているかがか。
- ・近郊の機関とその他の地域の機関における費用対効果も違っているのではないか。
- ・このような組織は、潰すのは簡単だが一度そうになってしまうと戻るのは難しいと考える。
- ・平成25年度負担金に関する検討についての体制と方法については、幹事長において事務局と協議して提案していきたいと考えるので、一任とさせていただきたい。

2 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」について

横井教授から資料2-1及び2-2に基づき報告があり、質疑応答、意見交換が行なわれた。委員長から、本件に関しては、改めて意見を頂戴し、次回幹事会において、山形人材育成委員会設置要綱(案)及び会則の変更(案)を改めて幹事会に提案したい旨発言があり、了承された。

(主な意見交換内容)

- ・「大学間連携共同教育推進事業選定委員会からの意見に対する対応方策について

(回答)」に関して、①に関して、回答の書式において、「大学コンソーシアムやまがたの取組」の欄を設定しておられますが、選定委員会の意見は、専ら各大学における展開について問うているようです。この記載の内容の是非の前に、本事業における、コンソーシアムやまがたの位置づけは、未だ確定していないはずであります。その中で、このように、次々の既成事実を積み上げて、実質的に、本学が提案している「山形大学が中核・事務局として直轄する」というシステムの余地を無くしていくことについては、いかがなものかと思えます。そもそも、本回答案について、「コンソーシアムの取組」の部分は敢えて記載しなくても良いものと思うのでありますが、どうでしょうか。

- ・人材育成委員会を本コンソーシアムの中に設置することについては、本学として、かねて提案してきた内容＝「本事業は提案代表校たる山形大学が中核となり、事務局機能についても山形大学事務局において担当する体制により展開することを提案する」＝に相容れないものと考えますことから、賛同できないものであります。

→会則第3条では、「山形県の高等教育の充実・発展のため、大学等高等教育機関相互の連携・交流を推進するとともに、それぞれの機関の知的資源を有効に活用して地域社会に貢献することを目的とする。」とされており、今回の委員会は本コンソーシアムの中に設置すべきと考えている。

- ・評価機能については、本コンソーシアムの評価部会の活用を図るべきであり、このような別途の、屋上屋を重ねるような、評価部会設置についても意見を開陳してきた。賛成できません。

→評価機能については、正に外部の連携機関の役割に大きく期待しているのであり、連携機関を入れる必要があると考えている。

- ・山形人材育成委員会の設置に反対しつつ、このようなことを伺うことは矛盾しているが、この委員会委員は、どのようなランクの方を想定しているのですか、また、委員会における、同格又は格下教職員の代理出席も容認するものであるのかを、御教示いただきたい。

→検討してご連絡します。

- ・協定書に学長押印の際には、この協定書を提出して、その後に正式な採択決定が来るようなお話であった。それとも、事業採択通知というのではなくて、直ちに補助金交付決定とされるのかも知れないが、今回の議事は正式に事業採択が決定されてからのものであるだろう。正式決定後に、持ち回り総会でコンソーシアム中心での実施の体制を審議、可決の場合は、持ち回り幹事会で関係委員会設置の審議ということで、性急に、本日中に決定とまで行かなくて良いのでないか。

- ・本事業関係経費は、補助金全額がまず文部科学省から山形大学に交付され、それが、コンソーシアムと教員・職員を採用する2大学に交付され、それぞれ

れの担当事業ごとに、コンソーシアムと担当大学から支出されるということ
で良いのか。それとも、山形大学から全額が中核主体となったコンソーシア
ムに交付され、そのうち2大学担当分は当該大学に交付されるというイメー
ジか。

→文部科学省から山形大学に交付され、その後、東北芸術工科大学及び東北
公益文科大学に配分する予定である。また、東北文教大学に関しては、今年
度に関しては山形大学で経理を行い、次年度以降に関しては検討いただいで
いるところである。コンソーシアムへの配分は現時点では考えていない。

→山形大学より事業実施をコンソーシアムに委託します。

- ・コンソーシアム事務局としては人員等の問題もある。受託して本当にやって
いけるのか。結局、山形大学が全面的に行うことになるのでないか。
→経費支出等は山形大学で行う。事業実施に関しての実施は可能と考えてい
る。
- ・今年度の関係予算（補正予算となるだろうが）については、いつ計上される
か。その可決がなければ、事業は進まないのであるから、それらを一括して
審議すべきでないか。この場合、文部科学省から山形大学に交付された後で
あれば事業展開可能と考えるのであれば、「本事業主体は山形大学だ」と考え
ていることになる。
- ・今回の大学間共同教育推進事業についてだが、ようやくコンソーシアムらしいプ
ロジェクトが立ち上がったと考えている、本事業はコンソーシアムが主体として
実施していくべきと考えている。
- ・委員会・部会構成（案）には、連携校及び連携機関のみの記載となっている。コ
ンソーシアム加盟機関全てが参画するスキームのほうではないのか。
→検討し訂正した（案）を提示します。
- ・今回は結論を出すのではなく、いただいた意見を元に改めて、持ち回り幹事会に
おいて改めて意見を頂戴し、次回幹事会において、山形人材育成委員会設置要項
（案）及び会則の変更（案）について提案していきたい。

[その他]

- ・大学コンソーシアムやまがた後援名義の使用承認に関する取扱い

事務局から資料3-1に基づき報告があり、質疑応答、意見交換が行なわれた。委員長
から、本件については、持ち帰りいただきご意見等があれば事務局に提出いただきたい旨、
また、特に意見がなければ了承されたものとしたい旨発言があり、了承された。

(主な意見交換内容)

- ・事後報告で構わないが幹事会委員に報告していただきたい。
→了解しました。

- ・『選ばれる自分を作るセミナー』及び『大学教育改革地域フォーラム 2012in 山形大学』の後援依頼について

事務局から資料3-2及び机上配布資料に基づき提案があり、諮られた結果、了承された。

・その他

- ・大学間連携共同教育推進事業に関して、今後の日程についてどうなるか確認をお願いします。既に連絡をいただいている、10月17日の第1回山形人材育成委員会については取り消しと理解して良いか。大学内で委員候補人選等の必要があるので、お示しいただきたい。

→これは準備会的に開催することを考えている。まず、山形大学が召集して、人材育成委員会設置が本コンソーシアムで決まったら、それに移行することでどうか。

- ・最初から山形大学による召集でのスキームを提案してきた。それに対して、コンソーシアムでなければならぬと主張されてきたのでないか。山形大学召集で良いのならずっと、そのスキームで行ったら良い。矛盾している。

→同感だ。コンソーシアムでやるからというから賛同してきたのだ。

→ちょっと整理して検討する。今後連絡する

次回開催について

次回会議は、日程調整の上、開催することとなった。

以上

【配 付 資 料】

資料 No. なし

幹事会委員名簿

大学コンソーシアムやまがた会則

平成24年度 大学コンソーシアムやまがた幹事会議事録（平成24年5月28日）

資料1-1 平成24年度 機関負担金（会費）

資料2-1 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定結果について

資料2-2 山形人材育成委員会の設置について

資料3-1 大学コンソーシアムやまがた後援名義の使用承認に関する取扱い

資料3-2 選ばれる自分を作るセミナー

[参考配布（各種事業等チラシ）]

やまがた夜話、合同企業説明会

議事録署名人

山形大学理事・副学長

田 弘 法



羽陽学園短期大学・教授

田中 弘 子



山形工科短期大学校・校長

勝見 英 一 朗

